

HOTeye

心と心のかよいう福祉の情報誌

ホットアイ

2019 Vol.99



地域で子どもを支えるために

- P1 特集 社会福祉事業所紹介
「えんくるり事業」で、
子どもたちのために新たな取り組みを
社会福祉法人「鳥取こども学園」
- P5 チャレンジ福祉の仕事
- P6 福祉専門職の紹介
児童養護施設 保育士
社会福祉法人「鳥取こども学園」
- P7 福祉人材センター情報
保育現場におけるエルダー制度導入の取り組み

- P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
智頭町社会福祉協議会
- P9 ボランティア・市民活動センター情報
鳥取県中部地震から2年「真の復興に向けて」
- P11 ことぶき高齢者情報
平成30年度 鳥取県高齢者健康運動会
- P12 ことぶき高齢者情報
音楽活動でボランティア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ



鳥取県ボラセンキャラクター
「はーちゃん」

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL <http://www.tottori-wel.or.jp>
e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

福祉人材の
求人・求職
の窓口です

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

ボランティア活動の
幅を広げる
活動を応援します

ボランティア・活動支援担当

ボランティア担当 TEL.0857-59-6336 福祉・教育担当 TEL.0857-59-6344
FAX.0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

元気な高齢者の
生きがい・社会貢献
を支援します

明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL <http://www.tottori-wel.or.jp/p/chiki/kotobuki/>
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



鳥取県男女共同参画推進企業

社会福祉法人 「鳥取こども学園」

春は桜並木が美しい鳥取市立川町を流れる天神川にそって
児童養護施設をはじめ「鳥取こども学園」のさまざまな施設があります。
昭和20年頃、殺風景だった川の両岸に学園の子どもたちと
職員が植えた苗木が、今では川を包み込むような桜トンネルになっています。
地域の児童福祉の拠点として、創設から110年あまり。
鳥取こども学園は、これまでに様々なモデルケースを実践してきました。
そしてこの度、地域福祉の課題に対して支援をする「えんくるり事業」で
県内の社会福祉法人に先駆けて「たちかわ こどもクラブ」を開所しました。



「えんくるり事業」で、 子どもたちのために新たな取り組みを



「えんくるり事業」は、鳥取県社会福祉協議会が推進する「生計困難者に対する相談支援事業」の愛称で、平成29年1月にスタートしました。

事業は、県内の社会福祉法人が種別の枠を取り払って、さまざまな状況の人たちの助けを、さまざまな源やノウハウ、ネットワークを生かして協働して支援する取り組みです。

行政にあてはまる支援制度がない、制度の狭間にあつて支援が受けられないなどの福祉課題・生活課題に対して、法人が連携して支える仕組みづくりであり、生活のしづらさに対する自立支援でもありません。それは、社会福祉法人に求められている「地域における公益的な取り組み」として全体的な実施をめざすもので、平成30年10月現在、市町村社協はもとより46法人が参画しており、鳥取こども学園もそのひとつです。

地域で子どもを支え合える可能性が

鳥取こども学園には、鳥取市内を中心に児童養護施設をはじめとする、子どもたちの様々な施設があり、多くの子どもたちが暮らし、また、さまざまなサポートを行っています。そこには、長年の経験で培った子どもと保護者支援のノウハウが蓄積

されています。

学園の藤野興一理事長は「虐待予防も含めた地域の児童福祉の拠点としての役割を果たすため、さまざまなモデルケースを実践してきました。大変なことも多々ありますが子どもは生まれた時から幸せに生きる権利がある」との信念を持って取り組んでいます」と、話します。

近年では、学園独自に一時保護やショートステイのための専門エリアを設け、緊急性の高い子どもたちの受け入れを進めています。また、子育て相談や、増加傾向にある子どもの虐待に関する相談は、24時間体制で受け付けています。

「養育中の親子に対する支援は、法人の公益事業としてロジカルな取り組みで、こどもクラブは、町内や地域の方々がより来やすく、気楽に相談でき、一緒に考える居場所づくりとして間口を広げたカタチです」と話します。

そして「こどもクラブに地域の



社会福祉法人
鳥取こども学園
の
藤野 興一
理事長

方々から協力者が出てきました。保護者も子どものために本気になって、新しい発想でいろいろを試みる、そんな動きがやっとな始まったように思えます」と、地域で子どもを支え合う可能性を見たようで、藤野理事長は期待の笑みを浮かべます。

安心できる 居心地のいい場所へ

たちかわこどもクラブは、鳥取こども学園を実施主体として、鳥取県厚生事業団、こうほうえん、鳥取県共同募金会、鳥取市社協、鳥取県社協が協力事業法人となつて、場所



田中佳代子園長

人材広報面などで協働し、えんくろり事業1周年にあたる平成30年1月25日にオープンしました。

学園の地域交流ホーム2階にあるファミリーホールを開催場所として、毎月第4木曜日の夕方5時から7時の間に、小学生から高校生を対象に「こども食堂」と「学習支援」、そして遊びの場として開放しています。

料金は、子ども無料、大人100円で、みんなで一緒にご飯を食べたり、宿題をしたり、遊んだり、子どもも大人も誰もが気軽に来られて、安心して楽しく過ごせる地域の居場所づくりをめざしています。

こども食堂は現在、全国に2000カ所を超えるほどに広まり、鳥取県内でも市部を中心におおよそ30カ所を数える拡がりをみせています。

法人としてできる公益的な取り組みは、養育期の支援においてもさまざまなカタチが考えられますが、

「こども食堂が増えている状況の中で、子どもに対する知識見識のある鳥取こども学園のノウハウを発信して、サポートして欲しいという依頼がありました」と、園長の田中佳代子さんは話します。



竹本智恵さん

開所してまだ1年もたちませんが、課題も見えてきました。「もっと出入りしやすい場所、曜日・時間の再検討の必要性や、何より月に1回の開催では十分な支援になっているのか疑問です」と、こどもクラブの責任者である竹本智恵さんは話します。

地域の人たちのつながりを大切に

たちかわこどもクラブが開かれる夕方に会場を訪れると、乳児部の栄養士の森本美佳さん



30食分を用意しています。

そして5時前になると、仕事明けや休みの職員が手伝いにきました。食事の用意から学習支援、遊び相手など、こどもクラブのスタッフのほとんどが職員のボランティアですが、それでも中には、よるこんで手伝ってくれる町内の方、たびたび顔を見せてくれる民生委員の方などがいます。

「まだまだ定着していません」「これからです」と話す田中園長と責任者の竹本さんですが、そんな地域の人たちとの関係づくりを広げていくことも、これからのこどもクラブの運営に欠かせないことだと認識したうえで、これから先を見つめています。

子どもたちのための新しいコミュニティづくり

食堂は2テーブル15席なので順番に食事をすませ、居室で遊んだり、宿題をしたり、談笑したりとそれぞれの時間を過ごします。研修室では、児童相談員の妹尾美希さんたちが、児童の宿題を見る学習支援をしていました。



ボランティアが配膳のお手伝い

今日のメニューは、ハヤシライスとメインに卵とハムのマカロニサラダにウィナーのソテー添え、デザートにヨーグルトです。20名の予約があり、約

森本美佳さん



妹尾美希さん

藤野理事長は「学習支援にとどまらず、町内の年配の方々との協力を得て、子どもが選択できる自然体験などのしくみを作りたいですね」と展望します。そして「子どものために子どもと一緒に、みんなで作っていくことが大切です。理論が先でありきではありません。取り組んでいく中で形成されてくる。福祉の世界はそういうものです」と、シンパシーを感じます。

そのような意味では、たちかわこどもクラブは、一緒に食事を作って食べたり、勉強したりするだけではなく、地域の人々が一緒に子育てを支援していく新しいコミュニティの姿を模索中だとも言えます。

目前にはスタッフや食材の確保という課題がありますが、地域のニーズに合わせながら、現在の月1回から月2回、そして週1回と開催できるようにしていきたいと、こどもクラブにかかわる職員は願っています。

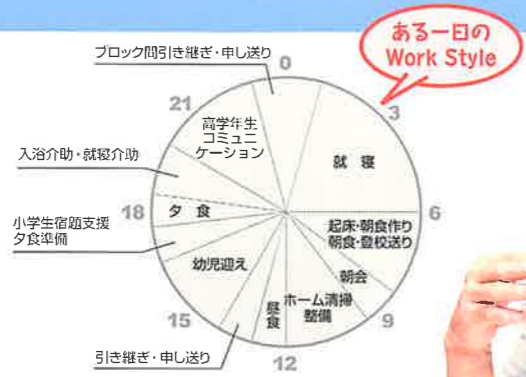


【概要】

- 所在地/鳥取県鳥取市立川町5丁目417番地
- 開設日/1948(昭和23)年1月1日に児童養護施設として開設
- 運営主体/社会福祉法人 鳥取こども学園
- 職員数/(児童養護施設)園長・副園長各1名、保育士25名、児童指導員8名、家庭支援専門相談員2名、里親支援専門相談員2名、セラピスト1名、看護師1名ほか(常勤職員49名、非常勤職員7名)
- 定員/本園40名(6ホール)、地域小規模児童養護施設6名×3ホール
- 利用相談窓口/当該施設

福祉専門職の紹介 児童養護施設 保育士

“ありがとう”のひと言ですべてがリセットされる



社会福祉法人 鳥取子ども学園 児童養護施設
こだに ゆうし
入所ホーム保育士 小谷 祐司



児童養護施設は、経済的困窮や事故災害、親の離婚、家出、傷病による入院などで養育困難となった児童、虐待を受けている児童などを預かり、家庭に代わって養育をする施設です。近年、入所する理由の一番は親からの虐待です。「児童指導員」もしくは「保育士」と呼ばれる施設の職員は、

そんな心の傷をおった子どもたちの親代わりとなって寄り添い、退所後に一人で生き抜く力を身につけさせる重要な存在となっています。

児童養護施設の内容、保育士の仕事の内容、やり甲斐と魅力は何ですか？

衣食住をふくめた子どもの生活保障を前提として、将来の生活に必要な文化や知識とともに、人生の楽しみを伝えていく仕事でもあります。ホームでの自由時間にギターを弾くことがあります。子どもが「ギターを教えて」と言ってきました。職員の趣味や特技が興味へのきっかけづくりとなり、開花することもあります。そして、自分で選んだことをすることで生き生きとできます。そんな時、自分が役に立つことができたと、やり甲斐につながっています。

「この仕事について良かった」と思うのはどんな時ですか？

自分自身、勉強や経験を積んできたつもりですが、子どもたちに教えられたり、ふり返りされたりと、お互いの変化をしながらともに成長して



いると感じられるときがうれしいですね。

そして何年も一緒に生活をして、いよいよ鳥取子ども学園を卒業するとき、今までとまったく違う、とても凛々しい面持ちで旅立って行く姿に「この仕事をして良かった」と心から思います。また「ありがとう」の最後の言葉が、これまでのへい違いや摩擦を一掃して、リセットしてくれるように清々しく喜びを覚えます。

仕事をするうえで大切にしていることは何ですか？

子どもが入所してから退所するまでの間に、たくさんさまざまな経験

を積んでもらいたいと思っています。厳しい実社会の中で、つい思いをすることが待ち受けていても、強く、楽しく生きていけるように願いを込めながら一緒に生活しています。

また、学校行事に親代わりとして出席した時に「今だけパパと呼んでいい」と子どもが言いました。すぐさま「いいよー」と応えましたが、本当の家族が欲しいのだと汲み取れ、私で申し訳ないと思いました。そんなことから、いつの時も職員の素直さと柔軟性が、子どもたちに対してとても大切だと思っています。

休日は何をして過ごしていますか？

週に2日は休日が取れ、趣味の料理や音楽から、ドライブ、旅行などを楽しんでいます。独身だからでしょうか、プライベートは充実しています。

また、仕事が終わった後に職場の同僚との飲み会など、職務で継続する事案はあっても引きずらず、オンオフを切り分けて明日の仕事の原動力になるようになっています。

Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人 鳥取子ども学園

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

子どもたちの大切な時期をともにして

乳児院 乳児部ホーム保育士 中村 瑠光さん



中村瑠光さんは、一時保護やショートステイ、トワイライトステイで3歳までの乳幼児を預かっている、乳児院のホームに勤務して2年目になります。高校の保育・福祉コースで、保育実習などを重ねるごとに、保育士になりたい気持ちが強くなってきたと話します。中村さんは、短期大学で資格を取得していったん保育園に務めたあと、鳥取子ども学園に入職しました。

保育園と大きく異なるのは、保護者の子育てSOSを受け止めて、子どもを預かりながら支援をするところです。ここでは、子どもの養育だけではなく、親に対する支援も求められます。中村さんはさまざまな状況に対し、児童相談所、鳥取市福祉課、子ども発達支援センター、保育園などの



関係機関に相談をして生活の問題解決を図るようになります。が、簡単ではありません。

「臨機応変な対応が求められます」とも話す中村さんですが、たとえば「離乳食への移行のし方がわからないで困っているお母さんに、正しいアドバイスができるようにしたい」と経験をさらに積んでいきたいと意欲的です。

またホームの利用形態も、日中一日泊まり、毎月定期、そして「ピート」とさまざまです。そのような中でも「おしゃべりができるようにするなど、成長が実感できた時や、子どもたちの笑顔が自分の喜びとなり、その積み重ねがやり甲斐になっています」と我がことのようにうれしそうです。

子どもの頃から幼稚園の先生に憧れていた田中菜桜さんは、名古屋の短期大学に進学して幼児教育を学ぶ中で、鳥取子ども学園での施設実習を受けました。その時すでに保育園や幼稚園ではなく、児童養護施設で働きたいと気持ちが固まっていました。それでも「一般的な保育園も経験しておこう」と、1年間勤務したあと、あらためて学園に入職して現在4年目になります。

そんな田中さんは「普通の園と養護施設は、まったく違います」と切り出します。「園は通つところですが、施設は「日中一緒に生活をする場所です。より家庭的な養育が必要で、社会的教育やしつけもなくてははいけません」と、責任の重さも感じながらホームの入所児童と昼夜をともにしています。

仕事のように、家庭のような職場

児童養護施設 入所ホーム保育士 田中 菜桜さん



入所児童は、幼稚園児から小中高生まで、女子と男子のそれぞれ6人のホームが田中さんの担当です。「仕事のよつで、急に大家族になった家庭のような職場です」と笑顔を見せながら「子どもたちの成長過程では、デリケートでむずかしいこともあります。自分が子どもの頭を振り返って考えたり、先輩のアドバイスに助けられながら対応しています」と話します。

子どもたちの成長を見守って



そのよつな中で「小学生が中学高校生となり、一緒に生活をする幼児の世話をするよつになった姿を見ると、とても微笑ましく愛着も深まり、この職場を選んで良かったと思えます」と満面の笑みを浮かべます。

子どもの時の田中さんは両親共働きで、放課後は祖母の家で過ごしていました。そこに毎日、近所の子どもたち7、8人が集まり、食事をして帰ることが日常だったそうです。それは、えんくるり事業の「たちかわ こともクラブ」を見るよつでもあり、クラブで学習支援をする予定の田中さんは、そんな経験を映しながら、子どもたちの成長を見守って

とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

智頭町社会福祉協議会

ボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信する場として『とっとりボランティアバンク』があります。

その中でも、ボランティアとともに活動したいという登録団体を紹介します。

【ホームページ】 <http://www.torivc.jp/>



正美健さん

津田英樹常務理事

ボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信する場として『とっとりボランティアバンク』があります。その中でも、ボランティアとともに活動したいという登録団体を紹介します。

平成30年7月5日から7日にかけて降り続いた西日本豪雨は、各地に甚大な被害をもたらしました。県内では智頭町社会福祉協議会が「智頭町災害ボランティアセンター（V.C.）を立ち上げ、被災者支援のボランティア活動を行いました。

幸いにも人命にかかわる被害はなく、建物の倒壊などありませんでしたが、10日に災害V.C.を開設してから15日までの間、最高気温が36度を超す炎天下の中で、延べ85人のボランティアが支援活動に汗を流しました。

「地域の力」が試される災害



85人のボランティアには、日頃から智頭町との関係が深い鳥取大学から、3日間延べ24名の学生も含まれていました。

その中の大学院工学研究科の山本遼さんは「3名の分別や流れてきた泥が詰められた袋を運ぶ作業をしましたが、被災者からの気持ちのこもった、ありがたい言葉が心に残っています。少しでもお役に立てて、私にとって貴重な経験になりました」と初めての体験の感想です。

「問合せ先」
社会福祉法人
智頭町社会福祉協議会
鳥取県八頭郡智頭町大字智頭1875
TEL 0858-75-2330
FAX 0858-75-4110

同様に梶本健さんは「少し前まで生活をしてきた室内の片付けや、家財の運び出しをする中で、アルバムを捨ててもいいと言われましたが躊躇しました。少し涙ぐんでおられ、自分の立場だ



山本遼さん

梶本健さん

保育現場における エルダー制度導入の取組をご紹介します



「新人の頃の自分」を振り返るためのワークの様子

鳥取県保育士・保育所支援センターでは、平成29年度より、新人職員の定着を目的としたエルダー制度の導入を支援する活動を行っています。平成29年5月に、滋賀県より幸重忠孝講師を招き、エルダー制度導入研修を実施。県内の幼稚園・保育園より管理職及び中堅職員が集い、制度導入についての講義や相談援助技術に関する演習を受講しました。

エルダー制度とは？
新人職員に対してエルダーとなる先輩職員が1対1で寄り添い、仕事面のフォローやメンタルサポートを行うことで、職場の定着を目指す制度です。



さとに保育園で活躍中の保育士2年目のお二人、小谷里帆さん(右)、福田恭平さん(左)

小谷さん「今年はクラスも変わり、エルダーの先生とも離れましたが、すれちがうと今でも『忙しくない？』と声をかけてくださるなど、安心して見通しをもつて仕事ができます。」
福田さん「女性が多い職場で最初は不安もありましたが、エルダーの先生が寄り添ってくださり、仕事にも慣れ、保育者としての援助にも自信がもてるようになりました。」

ルターから支援を受けた新人保育士のお二人から現在の声が届きました。



あすなる保育園、白兔保育園、久松保育園の3園合同エルダー研修の様子

日々の保育の忙しさの中、研修を重ねていくのは大変そうですが、定期的に研修をすることで細やかな指導が受けられる安心感と、仲間と顔を合わせることで、一人じゃない！と気づき、励まし合う場にもなっているようです。



木村園長「この制度を通して若い職員の思いや悩みがよくわかるようになりまし。寄り添ったエルダーとの関係はずっと続きますし、無理なく導入できる制度です。これからも継続していきます。」

平成30年度の取り組み

今年度の制度導入モデル園は「社会福祉法人あすなる会」「認定こども園倉吉幼稚園」です。

研修を受けている職員さんの感想

☆新人さんの感想☆

●仕事での目標（ビジョン）を思い浮かべることで、着実に「なりた自分」への意識は高まってきていると感じています。

●勤務し始めの4月当初は何もわからず悩むことも多く、毎日不安しかありませんでした。この制度でエルダーの先生に相談できるようになり、悩みも減り、毎日楽しく働かせていただいています。

☆エルダーさんの感想☆

●実際エルダーになってみて、「コーチング」という引き出すことの大切さを学びました。たくさん話をするようになり、人間関係も以前よりもよくなりました。日々の保育をする中でも、いいパートナーとなつてきていることを感じています。



倉吉幼稚園のエルダー研修の様子
右：新人保育士さん
左：エルダーさん

鳥取県中部地震から2年「真の復興に向けて」

被災の今から、これからのための取り組みを

東日本大震災の復興が続く中で、熊本地震、九州北部豪雨、そして西日本豪雨や大阪北部地震に北海道地震と、近年かつてないほどの大きな自然災害が相次ぐ中、2016年10月に起こった鳥取県中部地震から2年が経ちました。

これまでの復興に向けた取り組みと、その中で見えてきたものは何か。倉吉市社会福祉協議会の塚根智子常務理事にお聞きしました。

被災から見えてくる まちの本当の姿

倉吉市社協では、地震直後に立ち上げた災害ボランティアセンターで受けた市民のニーズをもとに、相談者および家屋の状況を確認した上で、何らかの支援が必要と判断した世帯については、社協内の「あんしん相談支援センター（生活困窮者等相談支援）」へつなぎ、今後の生活に向けての相談支援を続けてきました。

市の再建補助金や支援金等に社協の民生資金生活福祉資金などを組み合わせて活用したほか、修繕が難しい場合には、市内のアパートや公営住宅への転居につなげました。

市役所周辺の住宅街の路地を見上げると、今も屋根にブルーシートが残る家屋がそこに見られます。その事情としては、以前から空き家や倉庫であったことや、近隣の災害も多く業者が多忙なこともありですが、「修繕費が高くて対処できない」などの経済的課題や、「子どもたちが遠くに暮らしており、自分たちの代限りで使わなくなる家だから」などと、高齢化の問題もあると塚根常務理事は話します。

また災害は、ふだん見えなかった地域の姿をあらわにします。被災した家屋が生活ゴミでいっぱいであったり、近所の人と疎遠で孤立した状況があったりするなど、実状が見えたりしますが、悪いことばかりではありません。

修繕の依頼を受けた事業者からの相談で、家族との行き来がなかった認知症で一人暮らしの方について、社協の呼びかけにより家族や関係者で検討の場を持ち、本人と家族との話し合



倉吉市社会福祉協議会の塚根智子常務理事



また災害は、ふだん見えなかった地域の姿をあらわにします。被災した家屋が生活ゴミでいっぱいであったり、近所の人と疎遠で孤立した状況があったりするなど、実状が見えたりしますが、悪いことばかりではありません。

つなぐを築きたい 世代を超えた

この2年間に、災害復興を願う県市や団体による、さまざまなイベントが数多く開催されました。倉吉市社協も少なからず関わってきましたが、震災により中止した「第1回ボランティアアフェスティバル」を1年後に開催し、今年度も第2回ボランティアフェスを実施しました。

記念すべき第1回は、災害復興をすすめる、イベントをきっかけに身近なボ



ランティア活動を知り、倉吉の誰もがいつまでも笑顔で元気に暮らすことのできるまちづくりをめざしたものです。塚根常務理事は「震災をきっかけとして、世代を超えたつながりを築くことと次世代を担う子どもや若い世代を育てていくことの重要性を改めて考え、異なった世代の人たちが、一緒にやって企画して実施し、楽しかったことややり甲斐をみんなでも共有することを目的に企画しました」と話します。

ふだんのくらしを取り戻すために

復興支援隊縁のとりくみ ～わたしたちができること～

寒さが増してきた12月初旬。湯梨浜町内のあるお宅を訪れました。地震により被害に遭った2棟の家屋のうち、1棟は今でもブルーシートに覆われたままになっていました。



柿本代表

ブルーシートの傷みが激しくなり、家主さんが困っていたところ、新聞記事で、住民の困りごとに対応しているボランティア団体があることを知ります。「2年経った今でも、まだボランティアさんが活動している!」と驚き、早速連絡を取ったそうです。

そしてこの日、ブルーシートの張り替えを行ってもらうこととなりました。対応したのは、倉吉市を中心に活動するボランティア団体「復興支援隊 縁(えにし)」です。縁は、県内外から集まったメンバーで、主に日曜日や祝日に活動し、ブルーシートの張り替えや屋根の修繕などを行う他、日常の困りごとにも対応しています。

代表の柿本利彦さんは、「雨漏りの被害で困っているお宅が多く、ブルーシートの張り替えが必要だと感じ、活動を始めました」と話します。張り替えたブルーシートも、雨が降れば、そこに当たる雨粒の音などに不安を感じる方もいます。柿本さんは、活動を続けるうちに、被災された方からこうした不安を取り除きたいと思うようになり、屋根の修繕も行うようになったそうです。

～ブルーシートに覆われた「困りごと」～



屋根の修繕を行う柿本代表

これまでの活動したお宅では、震災とは別のところで課題や悩みを抱えているケースが少なくない、柿本さんは言います。そうした場合には、震災復興活動支援センターや地域包括支援センター、社会福祉協議会など、関係機関と連携しながら対応しているそうです。

また、活動に向う際には日常生活の困りごとなども聞き取り、できる限り対応すると言います。特に高齢者世帯のお宅では、庭の手入れや電球の取り替えなど、ちょっとしたことができずに困っていることが多いそうです。

縁では、活動後もお宅を訪問し、見守り活動を続けています。「再度訪問し、話し相手になるだけでも、とても喜んでもらえる。元気な姿を見るとこちらも嬉しくなり、そのことが励みにもなります」と柿本さん。「活動を続けるなかで、ブルーシートに覆われた屋根の下にも、困りごとがまだまだ存在することに気づかされます。私たちにできることは、そうした方々に寄り添い、話を聞くこと。被災されたお宅からブルーシートがなくなり、ふだんのくらしを取り戻せるまで、活動を続けていきます」と「真の復興」に向けて力強く話しました。

柿本さんや今回訪問したお宅の方から伺った話から、2年が経過した被災地の現状が垣間見えてきました。そしてそこには、「自分たちができること、を考え、活動を続けている姿がありました。

地域には、ちょっとしたことの助けを必要としている方がいます。小さな「自分にできること、でも、被災された方にとっては、大きな力になります。少しでも力になりたいと思われた方は、震災復興活動支援センター(0858-26-2954)までご連絡ください。

貴重な経験として 活かしていくこと

災害が見せ、気づかせることは多くあります。そこには人や組織の特徴が出てきます。「強い部分だけではなく、日頃気になっているところが現れてき

ます。この災害を、貴重な経験として、人材育成や組織運営に活かしていきたいと考えています」と塚根事務局長は話します。

あんしん相談支援センターの廣芳健二係長が、支援をした被災者を訪問する中で、地震で瓦屋根がずれ、新しくふき替えられた屋根を見ながら「あなたのお陰で雨漏りの心配もなくなつて良かったわ」とその家のおばあちゃんに笑顔を見せます。

県の再建補助金と社協の生活福祉資金を組み合わせたケースですが、「家屋の修繕だけではなく、高齢者や一人暮らしのお宅を訪問して、精神的な



あんしん相談支援センターの廣芳健二係長

不安や困りごとなどを聞くことで、少しでも不安が軽減されるように心のケアも心掛けています」と廣芳さんは

話します。

そして「ブルーシートが消えても『震災はまだ終わっていません』。それが私の実感です」と塚根常務理事は話します。外からは見えなくても、家の中や生活に支障のない所では手つかずの被災箇所が残っていたり、新たな借入金への対応が始まっています。

また、風雨にさらされ傷みが激しくなった自宅から次の生活の場へ移らざるを得なくなった高齢者など、時間の経過とともに現れてくる課題があります。そうした市民に、少しでも安心できる生活を応援したいと、真の復興に今も向き合っています。

音楽活動でボランティア



若いころからの趣味だった音楽演奏を活かしてグループを作り、各地のイベント会場や施設でコンサート活動をしておられる鳥取市湖山町の吉田宣之・千裕御夫婦をご紹介します。



県内の素敵な高齢者を同世代のことぶきレポーターが取材をします。「シニア」の「シニア」によるシリーズ。地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介いたします。

IOCCとAKC

本格的に活動し始めたのは、長年勤めたN.T.T.を退職し、しばらくしてから湖山町あけほの地区の老人クラブ会長をしていた時のこと。クラブの活性化を図るため、ミニ文化祭を開催し、宣之さんによるキーボードと同じ町内の女性のハーモニカ演奏をしたところ、評判も上々で、音楽好き仲間が8人集まりました。そして、平成二十三年二月グループを結成しました。グループ名は、「いなば・音楽クラブ」で略称IOCC、国際オリンピック委員会みたいで立派な名称と皆に親しまれています。

メンバーは、女性5名(奥様の千裕さんもハーモニカ担当です)と男性3名(キーボード、フルート、リコーダー)です。同時にあけほの老人クラブに合唱団「あけほのこころの唄クラブ」を設立させ、AKC(あけほ・AKBじゃないの?)として活動を開始しました。IOCCは、毎週土曜日、午前十時三十分から正午まで、吉田宅にて演奏の練習を重ね、AKCは地区の公民館で毎月一回、宣之さん達の演奏に合わせて懐メロや唱歌などを歌って楽しんでます。

活発なボランティア活動

発足後すぐに地域のケーブルテレビの取材を受け放送された事により、町内外に知られ、声をかけられるようになりまし。老人ホームへの慰問演奏、地区敬老会のアトラクションは、常連出

練習以外の楽しみ



IOCCでは、毎回十曲ほど練習した後、茶話会が始まります。その時々で話題も様々、料理や食べ物、話、健康に関する事、社会で起きた事件や最近多い自然災害の話など、話題の種は尽きず、中にはこのおしゃべりが大好きで楽しみだと言うメンバーもいるほどで

演、公民館祭や各地域の集会でもお呼びがかかり、二月月に一回位は出演活動をしているといった反響ぶりです。レパートリーは唱歌、歌謡曲を中心に三百曲以上あり、ご要望に応じて選曲し、毎回、楽譜や歌詞などの準備は怠りません。今までにいろいろな施設へ出かけているので、もしかしたら「ああ、あの時来てくださったグループかな」と覚えていらつしやる方もあるかもしれません。結成以来の活発なボランティア活動が評価され、この度、平成三十年四月に、勤めていたN.T.T.中国地区OB会の中国電友会から表彰されました。



す。忘年会はもちろん、毎年、花火にも出かけます。日帰り旅行も年二回、隠岐の島や海外旅行(香港・マカオ)にも行きました。今年は、小豆島の旅を予定しています。

音楽活動を通して、社会に貢献でき、さらに会員の親睦を図って、楽しみの活動も活発。いきいきシニアのお手本のようなお二人です。これからもお元気で楽しく、夫婦仲良く活動されたいことを祈念しております。

取材を終えて一言



IOCCの練習日に、吉田宅へ取材に行きました。色々お話を伺っている中、会員の方々が集まってきた練習が始まりました。写真を撮った後は、私も一緒に歌わせていただきました。

平成30年度 鳥取県高齢者健康運動会



秋本番。恒例の高齢者健康運動会が中部地区と西部地区で開催されました。この運動会は、スポーツ競技を通して、日常生活における健康づくりや仲間づくりの大切さを認識し、活力ある長寿社会になるための健康づくりを目的として毎年県内3地区で開催しています。参加者の年齢は60歳以上の方を対象として、個人競技、団体競技があり、団体競技においては市町村対抗とし、順位に応じて表彰をします。



今年度、中部地区は、9月28日(金)、倉吉体育文化会館にて約500名の参加者で賑わいました。競技は、7種目。福つり、〇×ゲームなど個人種目から大玉ころがしリレー、玉入れと団体種目もあり、参加者も応援の方も力が入ります。午前・午後の競技の合間にはアトラクションが行われ、北栄町老人クラブ連合会女性部の「北栄音頭」で参加者を楽しませてくれました。お昼休憩には、鳥取県看護協会による健康相談会

も開催されました。西部地区は、10月19日(金)、米子産業体育館にて約1000名の参加者で会場は熱気であふれていました。競技は、6種目で、福つり、運だめしの個人種目と玉入れ、大玉ころがしリレーなど団体種目。西部地区のみで行われている「市町村対抗応援合戦」もあり、それぞれ、衣装、パフォーマンスをこらし、賞を獲得します。今年度は、鬼太郎の法被を着て元氣な応援をした境港市が最優秀賞でした。どの市町村も工夫された応援で盛り上がりました。お昼のアトラクションでは、米子市老人クラブと春蘭会加茂川踊りクラブのみなさんが美しい踊りを披露されました。東部地区は11月8日(木)、県民体育館にて約600名の参加者で盛り上がりました。競技は5種目あり、個人種目が〇×ゲーム、福つり、団体種目はボールころがし、関所やぶり、玉入れです。お昼には、健康推進員の青山典代さんによる、元氣に体を動かすレクリエーションが行われ、参加者のみなさんで楽しみました。一緒に笑い、応援し、ある時は勝負をかけて競い合う。自身の体力にあわせて運動競技に参加し、健康づくりにつながる運動会になりました。



福祉の就職フェア&ガイダンスとっとり2019春 ~福祉のココロ、活かせるトコロ(職場)~

- 参加対象：① 県内の社会福祉施設等に就職・転職を希望される一般の方(福祉職の経験有無問わず)
② 2019年3月卒業予定者(大学・短大・専門学校)
③ 2020年3月卒業予定者(大学・短大・専門学校)
④ 保護者の方(同伴・単独どちらも可)
⑤ 介護助手として働くことを希望しておられる方
⑥ 福祉の職場に興味・関心のある方(どなたでも)
- 日時・会場：**2019年3月17日(日)** 13:15~16:00
ホテルモナーク鳥取 仁風の間 鳥取県鳥取市永楽温泉町403 (TEL0857-20-0101)
- 参加法人：決定し次第ホームページでお知らせします。
- 主催：社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
- 共催：社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- 後援(予定)：厚生労働省、鳥取県内の各公共職業安定所、公益社団法人鳥取県看護協会、新日本海新聞社、鳥取県社会福祉施設経営者協議会、公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構(順不同)
- 問い合わせ先：福祉人材部 TEL 0857-59-6336

保育士として就職を考えているみなさまへ 保育士就職支援セミナーのご案内

保育現場のブランク(未経験)の不安を解消するため、現在の保育に係る動向や保育の基礎となる保育所保育指針について学ぶ座学、保育士の仕事を体験できる職場体験を開催します。

①座学(第1回~5回は終了しました)

保育動向や保育現場の様子がわかり、参加者との交流も楽しめる日程です。

中部	東部	西部
<p>第6回 平成31年1月19日(土)</p> <p>○倉吉市未来中心 セミナールーム2 (倉吉市駄経寺町212-5) ○講師 倉吉愛児園 主任保育士 米澤 恵 氏</p> <p>○日程 13:00~ 保育に係る最近の動向について 13:30~ 保育現場の今について 14:30~ お茶を飲みながら参加者・講師との交流 ※自由参加 15:30~ 就職に関する相談会 ※自由参加</p>	<p>第7回 平成31年2月20日(水)</p> <p>○県立福祉人材研修センター 学習室 (鳥取市伏野1729-5) ○説明 鳥取県社会福祉協議会 参事 中井一途</p> <p>○日程 13:00~ 受付 13:30~ ①保育に係る動向 ②保育現場の今 14:30~ お茶を飲みながら参加者・講師との交流 ※自由参加 15:30~ 就職に関する相談会 ※自由参加</p>	<p>第8回 平成31年2月22日(金)</p> <p>○米子コンベンションセンター 会議室1 (米子市末広町294) ○説明 鳥取県社会福祉協議会 参事 中井一途</p> <p>○日程 13:00~ 受付 13:30~ ①保育に係る動向 ②保育現場の今 14:30~ お茶を飲みながら参加者・講師との交流 ※自由参加 5:30~ 就職に関する相談会 ※自由参加</p>

- 定員：各回10名
- 申込締切：開催日の1週間前(定員に達し次第締め切ります)

②職場体験

県内の各保育園で3~5日間の職場体験ができます。日程調整から事前打ち合わせ、振り返りの同行など、安心して体験ができるようサポートします。

- 期間：平成31年2月まで(随時)
- 受入保育園：県内の保育園23園(詳しくは保育士・保育所支援センターHPをご覧ください)
- 申込締切：体験希望日の2週間前まで
- お申込み・お問い合わせ先
鳥取県保育士・保育所支援センター(担当 中井、内田) TEL 0857-59-6342(受付9時~17時)
ホームページ <http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/3/> メールアドレス hoikucenter@tottori-wel.or.jp

鳥取県福祉研究学会 第12回研究発表会開催のご案内

一つひとつの小さな種(実践・研究)が、やがて大きな花(福祉社会の発展)を咲かせる

- 1日 時 平成31年2月16日(土) 10:30~15:30
- 2会場 鳥取看護大学・鳥取短期大学 (倉吉市福庭854)
- 3参加対象 鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している方
福祉に関する調査研究している方、その他福祉に関心を持つ個人・団体
- 4内 容 ○研究発表
(1)口述発表(分野別)
高齢者福祉(施設系)、高齢者福祉(在宅系)、障がい児・者福祉、地域福祉、その他社会福祉領域
(2)ポスター発表(分野を分けない)
○講演
演題「『聞き書き』に学ぶ ~傾聴・寄り添いから見えてくるもの~」
講師：鳥取看護大学 土居 裕美子 氏
- 5参加申込 参加申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局までお送りください(FAX可)
- 6参加費 (1)一般参加者・発表参加者1,000円 (2)学生・障がい当事者500円
※参加費は当日受付でお支払いください
- 7申込締切 平成31年2月8日(金) ※当日参加も受け付けます



【お問合せ・申込み先】
鳥取県福祉研究学会事務局
(鳥取県社会福祉協議会 福祉人材部内)
鳥取市伏野1729-5
県立福祉人材研修センター内
TEL:0857-59-6336
FAX:0857-59-6341

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

平成30年度

全国200万人加入!!

保険金額		年間保険料(1名あたり)	
保険金の種類	プラン	プラン	プラン
ケガの補償	死亡保険金	Aプラン 1,040万円	Bプラン 1,400万円
	後遺障害保険金	Aプラン 1,040万円(限度額)	Bプラン 1,400万円(限度額)
	入院保険金日額	Aプラン 6,500円	Bプラン 10,000円
	手術保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	100,000円 50,000円
	通院保険金日額	Aプラン 4,000円	Bプラン 6,000円
	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ	
賠償責任の補償	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	

タイプ	年間保険料(1名あたり)	
	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	350円	510円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・火災・津波)	500円	710円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。



ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)
送迎サービス補償 (傷害保険)
福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
(引受幹事) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間：平日の9:00~17:00(土・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区麹町3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間：平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。